

## 第4講 歴史家の歴史叙述とは何か

小レポート課題 歴史家とは何か

歴史家は過去と客観的に向き合い、正しく叙述しているのか？

職業としての歴史家

大学・研究機関に所属

歴史学の研究と教育に対して給料を受ける

非職業としての歴史家

町の歴史家

地方史・地域史・考古学などの分野で活躍

ボランティアとしての研究活動

狭い学者仲間の世界（学界）

学術雑誌 2000部発行が損益分岐点

論文の量産 狭い同業者の間でしか読まれない

研究者仲間の間でしか理解されない文体と論理の展開

一般に広く読まれることもなく、コメントを求められることもない

狭い世界の言葉で、仲間には理解されない論理による叙述

研究の方法論

史料収集

史料批判（内的批判と外的批判）

史料の解釈と過去の叙述による再構成

典拠を明記する責任

問題提起・先行研究・本論（テーゼとアンチテーゼそして総合化）・結論

論の論理的展開

歴史家も時代と社会の申し子という限界

時代と社会の偏見・価値観・関心の共有

現在を過去の中に読み込んでいく傾向

第二次世界大戦後の日本で流行った「中小農民」

歴史家に好んで使用される

階級分化、階級社会以前の牧歌的な共同体社会を想定させる言葉  
(近代史)

資本主義の発展 (資本の原始的あるいは本源的蓄積過程)  
中小農民層の分解→資本家層と労働者層の形成  
資本家による労働者の収奪

(古代史)

ポエニ戦争後の中小農民層の没落→都市無産化層に転落  
→大土地所有農場 (ラティフンディウム)  
奴隷使用による農場経営  
→ローマ社会の変質

問題 「中小」と呼ぶ根拠が明確ではない  
「中小農民」を単一の均質な集団としてとらえ切れるのか

民族移動

近代以前に「民族」という言葉を使用できるのか？

定義としては共通の祖先をもつ血縁集団・共通の言語と文化をもつ  
「民族」とされてきた集団が実際には複合的な集団であり、血縁関係  
を証明できない

歴史における「民族」の存在が自明のこととされる

歴史の中に近代の概念である「民族」を読みこんでしまう

人 (民族) とモノ (言語や文化など) の一体化

人 (民族) の移動がモノ (言語や文化など) の移動を結果するという考  
え

人 (民族) の移動を伴わないモノ (言語や文化など) の伝播の可能性

古代ギリシア人と方言の形成

前 2000 年頃 イオニア方言を話す言語集団の移動・中期青銅器文  
化

前 1600 年頃 アカイア方言を話す言語集団の移動・ミケーネ文明

前 1200 年頃 ドーリス方言やアイオリス方言を話す言語集団の移  
動・鉄器や火葬の文化

初期鉄器時代以降の方言分化